

・初めに

カオハガン島へ興味を持ったきっかけは、春にオリエンテーションで見たチラシだった。忘れずに申し込みをして、実際に行くことができて本当によかった。この研修を実現してくれた先生方、カオハガン島の方々、一緒に行ってくれた学生に感謝します。

・暮らしについて

食事はみんなで母屋に集まって食べた。料理はとても美味しかった。デザートにバナナが何度か出てきた。日本に輸出されるバナナとは違う味で、とても新鮮だった。料理人の方の腕がよくて、毎日違うものが食べられた。そしてどれも美味しかった。学生が泊まっていたロッジは木の柱に竹に似た植物を編みこんだような壁と、ヤシの葉で覆われた屋根でできた、風通しの良いカゴのような形の家だった。作りはしっかりしていて、雨は全く入ってこなかった。夜はランプの明かりだけだったがちょうど良かった。ベッドには蚊帳が張ってあったので寝るときに虫に悩まされることはなかった。しかし、何故か朝起きると噛まれたような跡があった。何に噛まれたのかは結局わからなかった。

シャワーの水がとても少なかったことに驚いたが、それでなんとか洗えることもわかった。

・小学校での授業について

島に着いて 2 日目の小学校での授業は、一番緊張していたことでもあったし、楽しみでもあった。事前のオリエンテーションで万華鏡を作ることになっていた。子供たちは手先が器用で、僕たちの説明を聞くよりも、目で見て真似をするのが得意なようだった。僕達が首から下げていた名前のカードを、見て名前を覚えて読んでくれたのが嬉しかった。僕の名前は発音しづらかったのかなかなか覚えてもらえずほとんどの子供に別の名前で呼ばれていた。子供たちの知っている誰かに顔が似ているらしかった。子供たちは絵を描くのが好きでカッコいいデザインの万華鏡がいくつも出来た。工作のあと鬼ごっこをして遊ぶ計画だった。鬼ごっこのルールを決めるのが難しかったので、島の子供たちが知っている遊びをみんなですることになった。男の子と女の子が別れてチームになる遊びが多かった。休み無く走り回ったのでとても疲れた。子供たちは何をするときでもいつも笑いながら取り組んでいた。子供達それぞれが自分を表現できていて、仲間はずれがいなかったのも印象的だった。

・ホームステイについて

3 日目に一日ホームステイをした。学生それぞれが別の家族と夕方まで過ごした。僕が行った家はクラフトの制作をしている人の家で、まずホストファミリーのお母さんと皿洗いをした。その時、洗いに使う水の少なさに驚いた。水は雨水に頼っているので、使う量は最小限にしないではいけなかった。それでも洗えることもまた驚きだった。その後、子供に案

内してもらってお父さんの仕事場のクラフトハウスへ行った。そこには気を削った食器などが棚に並んでいて、その中から一日で作れそうなものを選んでスプーンを作ることになった。作業場は解放されていて、作業しているあいだ、島の子供たちが何気なく入ってきて話をしたり遊んだりしていた。お父さんも追い払うこともなく笑いながら受け答えをしていた。カオハガン島には電線が通っていないのだが、発電機があって、電動のヤスリなど、制作に使う道具の電気はそこから来ていた。のこぎりできるところは調子が良かったが、彫刻刀の扱いになれず削るのに苦労した。僕が木を削っているところを子供たちが見守ってくれていて、「がんばれ」と言ってくれた。今日の夕飯のパーティにスプーンを使おうということになったので、お父さんに細かいところを手伝ってもらった。お父さんにはスプーンの完成図が頭にあるらしく、みるみるうちにスプーンの形に近づいていった。使う道具は最小限という感じだった。クラフトを作り終わったあと、子供達と島の中を散歩して回った。ホストファミリーの子供は僕を連れて歩いていることを他の友達に自慢しているようだった。僕も自分の作ったスプーンを人に見せびらかしながら歩いていた。一日でもホームステイができてよかった。夕食でそれぞれのホストファミリーと一緒に食事をする時に、お父さんが僕のことをクラフト作りを諦めずにがんばったと褒めてくれた。僕自身はうまくやれなかったと思っていたので嬉しかった。パーティの後半では歌ったり踊ったりしていた。子供たちも音楽が好きなので、一緒になって踊っていた。音楽を楽しむことが、そのまま生活になっているようだった。みんな音楽が好きで、歌も上手かった。

・珊瑚礁保護区について

島に居る最後の日、珊瑚礁保護の話をお父さんから聞いた。珊瑚礁は凸凹していて魚の隠れる場所が多く、サンゴが栄養豊富な分泌物を出すので世界で一番生き物の種類が多い生態系ができているということだった。話を聞いたあと珊瑚礁保護区でシュノーケリングをした。僕は海で泳いだことがなかった。海に入りたいと思ったこともなかった。研修に行くまではそこが心配だったが、島で何日か過ごしているうちにそんな抵抗はなくなっていた。保護区で見た珊瑚礁はすごいものだった。見渡す限りサンゴが広がっていてキレイすぎて気持ち悪いとさえ思ったほどだった。人が足を踏み入れないようにすると、ここですごいのかと思った。この光景をこれからも見られるようにしたいと思った。海で泳げるかどうかの心配は全く杞憂に終わり、ライフジャケットをつけていて沈む心配もなかったのですっと見ていられた。2、30分ほどで船に上がることになったがもっと見ていたかった。でも、人が踏み荒らさないためにはこのくらいでちょうどいいのかもしれない。海へ入ることへ抵抗がなければ、この島を訪れた人にも是非見て欲しい。サンゴにはさわらないように。

・研修全体を通して

海外へ行くのが初めてだったこともあって、多くのことが経験できたと思う。パスポートの申請も緊張した。自分を証明するものが名前と生年月日と国籍だけになってしまうこと

が心細かった。事前にオリエンテーションを何回かしていたのでチームの雰囲気良かったと思う。カオハガン島へ送ってくれる船に乗り込む時から島の人たちは歓迎してくれたのが嬉しかった。最初からみんな笑顔で接してくれたのでこちらも気が楽になり、みんなすぐに島に馴染むことができていた。帰りの飛行機が飛び立つまでに数時間待ち時間があった。最終日は体調を崩している学生もいたので良い休憩時間になったと思う。

・目的について

僕がこの研修で知りたいと思ったことは、持続可能な生活というのがどんなものかを知ることだった。以前に建築家の講演を聞いて持続可能な建物の話などを聞いたことがあったので興味があった。研修へ行くまでは、きっと、不便な生活をしていて、困っていることも多いと思った。実際に行ってみて、今までの僕が想像していた生活とは全く違うことがわかった。水をととても少なく使っていることなど、物の使い方の違いもあったが、多少の問題があっても、それを気にしないで生きている島の人々の精神が強烈だった。島に住んでいる人は毎日満足しながら生活しているようだった。子供も大人も、誰の前でもよく笑っていたことがすごく印象に残っている。カオハガン島に住む人たちは自分が生きるためにしていることを心から楽しんでいるようだった。アクシデントで船の一部が壊れても、全く気にしていない様子だった。カオハガン島の人たちは15歳までに生きるためのすべてのことができるようになると、島主の方が言っていた。その中で、人間が自然の中の一部であることを知っていて、災害や障害になるものに対して、諦めているのとも我慢しているのとも違う、余裕のある対応ができるような精神も身につけているのだと思う。日本に暮らしていると今の生活に不満があることが多いが、生活そのものよりもどんな心の持ち方でいられるかが大事だとわかった。持続可能な生活とは、今の生活の一部を変えるだけでなく、今自分が生きている時間をおろそかにしている意識そのものを変えることだと思う。未来へ持続可能な世界にするためには、使えるものを使い過ぎないことはもちろん、今の世代の人がやり残すことのないように、楽しんで生きることが大事だと思った。僕の目標は十分に達成できたと思う。

・この研修で得たこと

初めに考えていた目的以外にも、得るものが多い研修だった。思いがけず、自分の所属している分野以外の色々な学科の学生と交流することができた。今思えば、異文化交流は初めにみんなで集まった時から始まっていたのだと思う。自分の専門分野のことで言えば、自分の知らないものを多く経験したことで、表現できる幅が広がったような気がする。音楽を楽しむことが生きていくのに必要だということもわかったので、これから音楽を聴くようにしたい。それから、外国で起きたことのニュースを、自分にも関係のあるニュースだと思っで見られるようになった。この研修に参加することができて、本当に良かったと思う。